

水稲



収穫までの管理



水稲

田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

◎いもち病の対策

葉いもちが例年、多発している状況です。畦畔の草刈り及び稲の状況を観察し、病気が発生していないかを確認してください。

葉いもちが発生している場合は、ブラシン粉剤(フロアブル)を散布してください。(予防剤及び治療剤)

注) 散布した場合、出荷米は一般米扱いとなります。

◎出穂期からの水管理

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理をして下さい。出穂期以降は、浅水での間断灌水に切り換えて下さい。

◎病害虫防除

・1回目

水田の約5～6割程度の出穂が確認できる時期に、いもち病・カメムシ等の対策として「トライスタークル」の散布をお願いします。

注) 今年度は、カメムシ等の害虫が多発する傾向となっていますので、ほ場を巡回しながら、散布を実施してください。

・2回目

前回散布から7～10日後に、カメムシ等の対策として「キラップ」の散布となります。

注) 散布の際は使用基準を遵守し、飛散等がないよう心がけて下さい。又、散布された際には栽培管理台帳への記入をお願いします。

◎適期刈り取りについて

1穂籾の85% (籾黄化率) 程度黄色く熟れる頃が収穫適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっている事が多いので、注意が必要です。目安は出穂期 (ほ場の40%程度出穂した日) から35日たった頃です。

野菜



甘長とうがらし今後の管理



野菜

小林 優介
下島営農指導センター
080-1729-1635

追肥…収穫始めから行う。

※アサヒエース 10a当たり14～20kg

(10～14日の目安)

又は、液肥を500倍かん水する。

かん水…水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなることあり、曲がり果の原因になる。

整枝…主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。

※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果…曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り…2段目は1段目より40～50cmの高さにする。

※1段目は地面から70cmぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策…Zボルドーを500倍で散布する。(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策…スタークル顆粒水溶剤 2000倍 前日まで 2回 スリップス

アフーム乳剤 2000倍 7日前まで 2回 オオタバコガ

モスピラン水溶剤 8000倍 前日まで 2回 アブラムシ類

尻腐れ対策…カルシウム剤の散布を行う。

(ジューシーカル・スイカル・エキカル等) を500～1000倍で散布する。

白絹病対策…リゾレックス水和剤 1000倍 前日まで 2回



6月・7月の柑橘園管理

果樹

原口 悠貴

下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病虫害防除

品種	対象病虫害	属性	農薬名	希釈倍数	水100ℓ当たり	散布時期
温州	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォーム フロアブル	2,000倍	5mℓ	6月上旬 ～下旬
	黒点病 展着剤	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤 加用 アビオンE	600倍 1,000倍	16.7g 10mℓ	
	ミカンハダニ 黒点病	普通物	ハーベストオイル ジマンダイセン水和剤	200倍 600倍	50mℓ 16.7g	6月中旬 ～下旬
	ミカンサビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	5mℓ	
	アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	普通物	リーズン顆粒水和剤	2,000倍	5g	7月中旬 ～下旬
	黒点病	普通物	エムダイファー水和剤	600倍	16.7g	
中晩柑	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォーム フロアブル	2,000倍	5mℓ	6月上旬 ～下旬
	黒点病 展着剤	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤 加用 アビオンE	600倍 1,000倍	16.7g 10mℓ	
	ミカンハダニ 黒点病	普通物	ハーベストオイル ジマンダイセン水和剤	150倍 600倍	66.7mℓ 16.7g	6月中旬
	ミカンサビダニ	劇物	混用 ハチハチフロアブル	2,000倍	5mℓ	
	アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	普通物	リーズン顆粒水和剤	2,000倍	5g	7月中旬 ～下旬
	黒点病	普通物	エムダイファー水和剤	600倍	16.7g	
通共	カメムシ	普通物	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	5g	発生時
		劇物	テルスターフロアブル	3,000倍	3.3mℓ	

※ハーベストオイルについては、落果の多い樹・樹勢低下樹には使用を控えて下さい。
 ※カイガラムシが多い園では、再度エルサン乳剤 1,000倍を散布。(6月中旬～下旬)
 ※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル 4,000倍も使用可能です。(7月)

2. 施肥

○通常タイプ

施用時期	肥料名	品種名	10a当たり
6月上旬	果樹専用スペシャル	早生・中熟・普通温州	2袋
		ポンカン	3袋
		清見・甘夏・パール柑・河内晩柑	5袋
		デコポン	4袋
7月上旬	新アグリロング28号	全品種	5袋

3. 葉面散布

目的	薬剤名	希釈倍数	備考
樹勢維持	尿素 又は 神協スピリッツ 又は アミノジューシーN14	500倍	新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。
緑化促進	葉面マグ	200倍	
新梢の充実 果皮強化対策	ジューシーカル 又は バイカルティ	1,000倍	

4. タイベック被覆の実施(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけぼの・早生	7月中旬～8月中旬

5. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。

但し、裂果が多い園・心配される園では、生理落果終了後から行いましょう。

広報誌5月号掲載の誤りについて下記のとおり訂正しお詫び申し上げます。(7p 果樹5月・6月の管理)

1. 病虫害防除

(訂正前)	中晩柑	ホコリ・サビダニ カイガラ類	普通物	モベントフロアブル	2,000倍	50mℓ	5月中旬～下旬 (落弁期～一次落果期)
(訂正後)	中晩柑 温州	ホコリ・サビダニ カイガラ類	普通物	モベントフロアブル	2,000倍	50mℓ	5月中旬～下旬 (落弁期～一次落果期)